**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第３２回　（２０１７年　０４月０４日）**

**・第３２回の勉強範囲：「第一章　師と弟子」８頁**

**＜『ラーマクリシュナの福音』のエッセンス：　心は神を思いつづけよ＞**

・📖 （読む）「師と弟子」　８頁下段Ｌ２～Ｌ３

*M（へりくだって）「私たちは、どのようにこの世間に生きるべきでございましょうか」*

（説明）

Ｍさんのこの質問は家住者にとって、とても大事な質問ですね。

家住者がどのように仕事をすればいいか、家族とどのように暮らせばいいか、それはとっても大事でしょ。

また、日本ヴェーダーンタ協会のメンバーは何人くらいいますか？

生徒「何百人」

その人達は近くに住んでいるわけではありませんが、みんな家族ですね。日本ヴェーダーンタ協会の家族はとても大きいです。ふつうの家族は最近では２~６人くらいですね。それに比べて日本ヴェーダーンタ協会の家族はとても大きいので、マネージメントは簡単ではありません。例えば、信者にはそれぞれに考えがあり困ったこともあります。ですので、みなさんのサポートをいろいろします。また信者さんが協会に来ますと、何を食べさせるかまで考えないといけない。

ときどき「マハーラージ、あなたは私たちがどれくらい大変か分からないです。なぜならあなたはお坊さんですから」と言われます。しかしそんなことはありません。

森や洞穴に住んでいるお坊さんですとそうではありませんが、我々は社会の中に住んで仕事をしていますので、この質問と答えはお坊さんにとっても大事です。そしてシュリー・ラーマクリシュナの言うことは何ですか？

答えを読んでください。

・📖 （読む）「師と弟子」　８頁下段Ｌ４

*師「自分の務めは残りなく果たせ。しかし心は神を思いつづけよ。*

（説明）

これが家住者、信者、お坊さんのための大きなヒントです。別の助言はあまり要らない。それだけで十分です。

**すべての仕事をしますが、心で神様と自分が繋がっている状態です。**

本当にこれが『福音』のエッセンスです。

このことを思い出して実践しますと、『福音』の勉強はしなくてもいいくらいです。

『福音』の中にはいっぱい説明がありますが、すべてのセンテンスはこのことの説明だけです。同じことを違う説明の仕方をしています。

「我々は仕事から離れられないので仕事はしてください。しかし心で神を思いつづける」

これです。これは聞いただけでは簡単そうに思うかもしれませんが、実践するとどれくらい難しいか分かります。しかしそれでも実践していくと、自分の心のコントロール、抑制ができるようになります。

**神様と繋がっていると、悲しい、苦しい状態になっても元の安定した状態に戻れる**

例えば、とても身近な家族が亡くなると、とても悲しいでしょ。悲しんで悲しんで、頭がおかしくなることありませんか？その種類の悲しみは堪えることができないですから。

また、お金の問題について考えてください。例えば仕事が突然なくなります。しかし家族を食べさせないといけないし、銀行にローンがあってそれを払わなくてはいけない。そのような状況になることはあります。例えば大きな地震の時にそのような状態になることがありますね。ですので、実際的な例です。

そしてもし、そのような状態になった時には、全く動くことができなくなるようです。

ですが動かないといけないでしょ。それが問題です。

私たちはひどい状態になっても生きなければならない。しかしどのように生きていけばいいか分からない。

シュリー・ラーマクリシュナの言うことは、

大変な状態になる前から、神様と繋がっている状態を得ていますと、大変な状態になった時に心はもちろんとても大変ですが、だんだんと元の安定した状態に戻ることができる、ということです。

**神さまと繋がっている人と世俗的な人の違い**

①船の例

シュリー・ラーマクリシュナが住んでいたドッキネッショルの前にはガンジス川が流れています。そこに二種類のボートがありました。ひとつは漁師のとても小さくて軽いボート。もうひとつは大きなボートで中には荷物がいっぱい入っています。そのとき、とても大きな汽船が速い速度でやってきました。速度が速くて大きい船ですから、強くて大きな波が立ちました。その波の影響で二種類のボートはどうなりましたか？　漁師のボートは小さくて軽かったので、転覆する可能性があります。しかし大きなボートは揺れますが、あとでまた元の安定した状態になりますね。転覆しない。

②飛行機の例

飛行機を例にとると、普通の人は「ヘリコプター」で、信者は「大型旅客機ボーイング」のようです。台風で大きな風が吹きますと、ヘリコプターは事故を起こす可能性がありますが、ボーイングはちょっと揺れますけれども大丈夫です。

ふつうの世俗的な人は、とても大変な状態になりますと、漁師のボートのようになります。

動揺して心を乱す。そしてふつうの状態に戻らない可能性があります。頭がおかしくなったり、自殺する可能性もあります。

しかし神様の信者はそうではないです。もちろん大変な状態になりますと、絶対にその影響はありますが、大きなボートのように、少し揺れても転覆はしません。

だから神様と繋がっている状態が必要です。神様のことを思いながら仕事をして、家族と接してください。そうしますと、とっても大変な状態に入っても、ちょっと揺れてもあとでだんだん大丈夫になります。安定した状態が出ます。

**神様と我々の関係は永遠**

・📖 （読む）「師と弟子」　８頁下段Ｌ５～８

*みなとともに―妻子や父母とともに生活して彼らに仕えるがよい。お前にとって非常に親密な人びとであるかのように彼らを扱え。しかし心の奥底では彼らは自分のものではない、ということをわきまえていなさい。*

（説明）

これが難しい。みなさんは、「私の旦那さん、私の奥さん、私の息子」と思っていますね。それを「『私の…』ではない」と考えるのは、難しいですね。

ですので、ひとつだけ覚えておいてください。

**我々の家族、一番近く一番愛した人との関係は今生までです。今生に始まって、今生に終わります。しかし神様と我々の関係だけは永遠です。**

この方がイメージとして簡単かも知れない。

**・質問です**

どうして息子や娘、奥さんのことを考えるのではなく、神様のことを思い出すことが必要ですか？

**・答えは２つあります**

①神様と我々の関係が永遠だから。

②神様を思い出すと、大変な状態になって心が揺れても安定した状態に戻ることができるから。

**無執着のために識別する**

識別して下さい。

①今生の関係は、今生で始まり今生で終わる。

②神様と我々の関係だけが永遠。

両方イメージして識別して下さい。識別だけが無執着になる方法です。

我々には本当にたくさんの執着があります。そしてそれが我々の苦しみ、悲しみの原因です。識別して執着を取り除いてください。

そして勉強会の時だけではなく個人的に集中して考えた方がいい。そうしますと理解のレベルが正しく深くなります。

**・無執着のための個人的な識別の例**

私の個人的な識別の例を言います。

私は以前、インドでは大学で仕事をしていました。ラーマクリシュナ・ミッションのヴィディヤマンディール大学です。最初はそこの学生でした。それから先生になり、お坊さん、アシスタント学長、それから本当の学長になりました。長い間ずっと同じ場所で過ごしました。私はその場所や子どもたちが大好きです。そうしますと執着が出る可能性が絶対ありました。そして無執着のために識別をしました。

◎ラーマクリシュナ・ミッションのヴィディヤマンディール大学は永遠ではないです。

絶対はじまります、絶対なくなります。

◎ラーマクリシュナ・ミッションは永遠ですか？　ミッションも永遠ではない。

ミッションも始まりました、絶対、未来に終わります。

◎永遠は何ですか？　シュリー・ラーマクリシュナだけが永遠です。

もうひとつの例を言います。

◎日本ヴェーダーンタ協会の何が永遠ですか？

信者も教会も日本も永遠ではない。真理だけが永遠です。

このように考えれば執着は出ないです。

そして自分の現在の状態から個人的に識別しないと、本当の識別はできないです。

一般的な識別はあまり意味がありません。

**神様を思いつづけるためにいつもジャパをする**

シュリー・ラーマクリシュナの言うことは、

識別をして「**あなたが『私のもの』と思っているものは、本当はあなたのものではない、あなたの本当のものは神です**」ということを心の中で知っていてくださいということです。

『福音』の中で「お金持ちに仕える女性の召使いは家の仕事を全部するが、心はいつも故郷の自分の家にある」という例がこの次に出ます。このような種類の例は、あとでもいろいろあります。なぜなら

『ラーマクリシュナの福音』のエッセンスが「心にいつも神を思いつづける」ことですから。

そのための肯定的な具体的な助言は、

すべての仕事をするときに、仕事をしながら神様のことを思いだしてください。

その大きな方法が、**ジャパ**です。**神様の名前を唱えてください**。

なぜなら仕事の途中に瞑想をしたり、賛歌を歌うことはできませんから。

いつも心で唱えてください。

オーム　ラーマクリシュナ　　オーム　ラーマクリシュナ

オーム　ナマ　シヴァーヤ　　オーム　ナマ　シヴァーヤ

南無阿弥陀仏　南無阿弥陀仏

何でも好きな神様のマントラを唱えてください。それで大丈夫です。

オーケー、ありがとうございました。

（第32回『福音』勉強会　以上）